

令和元年度 第1回かのや型スマート農業研究会を開催しました。

令和元年11月19日、委員14名の参加のもと、第1回かのや型スマート農業研究会を開催しました。研究会では、本年度の取組みに関する報告と、今後の取組みに関する意見交換を行いました。



## 研究会委員の主な意見等（抜粋）

- アシストスーツは重たいものを持つだけではなく、農作業時に中腰の体勢を長く続けられるようなものも実証ができたらと思う。
- 米の品質を保持するため水稻のカメムシ防除を年2回、防除機で行っている。今後はドローンで防除していこうと思っているが、ドローンで散布できる薬がどうしても限られているので、米以外の作物でも散布できる薬が少ないのがネックだと思う。
- アシストスーツを市から借りて使用したが、若者にはスピードが出ないので物足りないかもしれないが、年配の人には楽に使える良い機械だと思った。
- 立ちっぱなしの野菜の選別の作業時に、腰をアシストするものもあるらしいので、そのようなものも見せてもらいたい。
- ドローンは薬がまだ少ないのがネックだが、今後普及していくと思っており、欲しいと思っている。
- ドローン農薬散布等については消費者視点ではどうなのかと思う。散布の適切な時期、若しくはどのような虫が発生しているのかを早く見つけるなど、散布前の察知をいち早く共有できるようなシステムをつくるべきでは。
- スマート農機という分野は、これまでの農業機械と違って見切り発車が多く、ロボットトラクターなども監視を付けないといけないなど、国のガイドラインにより規制されている。
- ロボットの下位にアシスト農機といわれるものが、各地域に入りつつあり、さつまいもの植え付けや、水稻の田植え作業などが当面のターゲットとなっている。
- 九州では佐賀県に1台だけ、我々も注目をしている自動運転田植機がある。水田のまからは、手動で植えなければならないが、法人の従業員一人で30ha以上を植えたと聞いている。製品化はもう少し待たないといけないのではないか。
- 先般、環境制御装置の先進地研修に参加させてもらったが、研修先の農家の考え方が自分とは全く異なっており、非常に勉強になった。また、先進地研修を組んで欲しい。